


NAGOYA CITY UNIVERSITY MEDICAL SCHOOL

名古屋市立大学 医学部 医学科
学部案内 2026



名古屋市立大学医学部
オリジナルウェブサイト



根底にあるのは、人間への深い愛
深い医学知識と技術を通じた人類への貢献

MESSAGE



皆さんは「医師」にどのようなイメージを抱いていますか？ドラマや映画で描かれる姿に憧れる方も多いでしょう。しかし、実際の医師は、患者さんの命を預かる責任の重い職業であり、常に最新の医学を学び続ける覚悟と、患者さんに寄り添う献身の姿勢が求められます。医学部進学を志す皆さんには、まずこの心構えを大切にしてほしいと願っています。

医師のキャリアは多様です。臨床の最前線で活躍する救命医や家庭医、基礎医学の研究者、新薬や治療法を開発する医師もいれば、行政機関や企業、さらには宇宙飛行士として活躍する人もいます。医学部での学びは、こうした無限の可能性への扉を開いてくれます。

名古屋市立大学医学部では、基礎医学から臨床実習までを体系的に学び、全国屈指の約2,300床を誇る大学附属病院群で最先端の医療を経験できます。MD-PhDコース、ボランティア活動、部活動など課外活動も盛んで、充実した学生生活を送ることができます。「学生と教員の距離が近い」温かな環境のもと、私たち教員は皆さんの夢の実現を全力で支えます。

医師になる強い信念を持った皆さんのご入学を、心よりお待ちしております。

名古屋市立大学 医学部長 片岡 洋望

CONTENTS

- 2 医学部長挨拶
- 3 名市大の魅力
- 5 特徴的なカリキュラム
- 6 BRJ活動
- 7 入学試験案内
- 9 学科案内
- 11 データ
- 13 学生からのメッセージ
- 17 卒業後の医師臨床研修について
- 19 教員/卒業生からのメッセージ
- 21 研究者への道/MD-PhDコース
- 23 研究内容紹介
- 25 クラブ・サークル
- 27 キャンパスカレンダー
- 29 留学案内
- 30 沿革

名古屋市立大学の魅力

01 名古屋市立大学医学部附属病院

名古屋市立東部医療センター・西部医療センター・緑市民病院、
名古屋市厚生院附属病院・総合リハビリテーションセンター附属病院が名市大の医学部附属病院となりました。



東部医療センター



西部医療センター



みらい光生病院

約2300床の病床を持つ、
国公立大学で
全国最大規模の
大学病院群



みどり市民病院



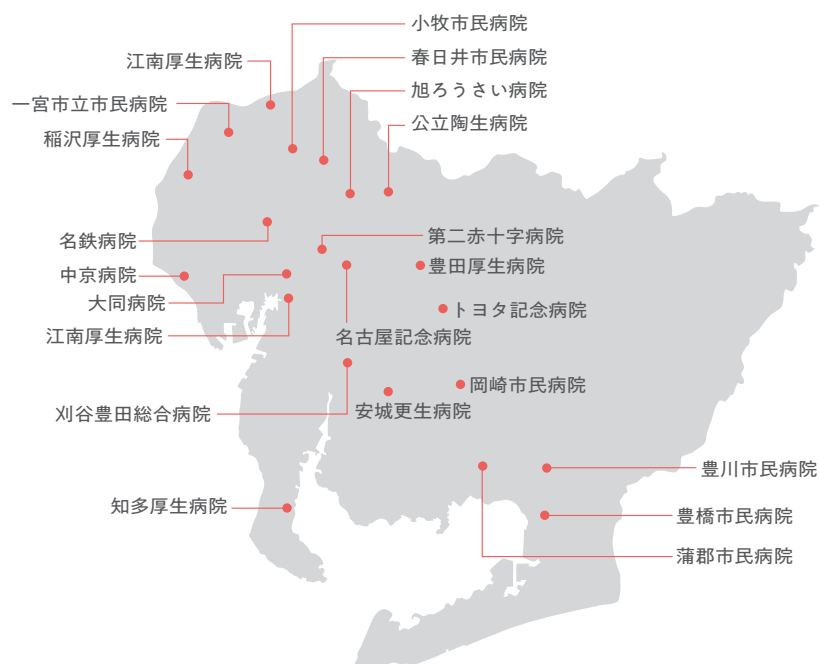
名古屋市立大学病院



リハビリテーション病院

02 臨床実習協力病院

本学では、学生のうちから
一般病院での臨床実習が可能です。



03 世界基準の医学教育を推進

名古屋市立大学医学部医学科では、一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を2019年10月に受審し、教育プログラムが国際基準に適合していることが認定されました。

本学の優れた点は、Scientific Writing and Presentation、MD-PhDコース、疼痛科学、コミュニティ・ヘルスケアプログラムと東部・西部医療センターの附属病院としての活用と評価されました。

医学部医学科では、機構の評価報告書を踏まえ、引き続きプログラムの改良に取り組み、教育の質向上を目指します。

*認定期間は、2020年6月1日～2027年5月31日です。



04 学生サポート

本学医学部医学科は、教員と学生との距離が近いと評価されています。学生2名あたり約1名と教員数が多く、人材育成に熱心な教員が多く在籍しています。さらに、M1からM6まで継続的なメンター制度を導入し、定期的な面談を通じて学生をきめ細かく支援する体制を整えている点も特徴です。また、部活動やサークル活動に参加する学生が多く、上級生と下級生とのつながりが強いことも、本学の大きな魅力となっています。

オリター制度について

本学では、入学式から1週間ほど新入生歓迎会期間があります。この期間中に新入生は、授業の準備や合宿、歓迎パーティなどを通して同級生との絆を深め、大学生活に慣れていきます。このとき、誘導やレクリエーションの企画を通じて新入生の手伝いをする先輩が「オリター」です。オリター制度は、先輩・後輩の関係を深めるきっかけにもなっており、数十年続く伝統です。

05 学習スペース

厚生会館や基礎教育棟セミナー室、西棟3階研修室において自習が可能です。

また、6年生の夏～2月の国家試験終了までは、基礎教育棟5階セミナー室や厚生会館セミナー室を勉強部屋として優先的に使用できます。

06 国家試験合格率

	新卒			既卒			全体			全国平均
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第115回(令和3年2月実施)	102	101	99.0%	3	1	33.3%	105	102	97.1%	91.4%
第116回(令和4年2月実施)	99	98	99.0%	3	0	0.0%	102	98	96.1%	91.7%
第117回(令和5年2月実施)	81	79	97.5%	3	2	66.7%	84	81	96.4%	91.6%
第118回(令和6年2月実施)	111	109	98.2%	3	3	100.0%	114	112	98.2%	92.4%
第119回(令和7年2月実施)	99	94	94.9%	1	1	100.0%	100	95	95.0%	92.3%



医療系学部連携チームによる多職種連携教育



コミュニティケア卒前教育プログラム「名古屋市立大学多職種連携教育：基礎」は、本学の医療系学部の学生を対象としたカリキュラムとして、平成21年にスタートしました。令和7年度からは、これまでの医学・薬学・看護学に加え、新たに設置されたリハビリテーション学の学生も参加し、4つの医療専門職を目指す学生が1年間共に学ぶプログラムへと発展しています。

本カリキュラムでは、①他者の考えを受け入れ尊重する姿勢、②医療人を目指す学生としてのプロフェッショナリズムの基盤形成、③様々な価値観や生活環境をもつ異年代との交流、の三つを目標としています。この目標に向かい、1学年約370名の学生が35チームに分かれ、4専門職の教員とともに学びを深めます。

前期には、実際の患者さんによる講演、医療専門職による各職種の役割についてのレクチャー、基本医療技能実習、附属病院での臨床体験などを実施します。後期には、医療福祉施設、地域包括支援センター、社会福祉協議会など、地域包括ケアを支える多様な施設や組織の活動に参加し、医療者として「生活と人生を支える」視点を養います。

本プログラムでは、4職種を目指す同じチームのメンバーとのディスカッションを重視しています。これまでの学びとは異なり、「唯一の正解がない問い」に向き合い、他者の意見に耳を傾け、尊重する姿勢を培うことを目的としています。

本学独自のこの多職種連携教育プログラムは、学生にとって、将来の医療現場でますます重要となる「多職種連携能力」を育む貴重な機会となるでしょう。

今救えない患者を救うために～MD-PhDコース～

本学医学部医学科は「人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元する。」との理念にある通り、優れた若手医学研究者の育成に力を注いでいます。

本学には、医学研究を志向する医学部学生に対し、早期に研究の機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手医学研究者を養成することを目的として、平成20(2008)年度に「MD-PhDコース」が設立されました。

医学部

卒業後の年数

1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

●学部卒後、すぐに大学院に進学した場合



●学部卒後、8年以内に大学院に進学した場合



通常カリキュラムを超えた教育活動



医師となる自分自身のために ～自らがより深く学ぶ～

名市大には医学生が自ら学ぶ活動が多くあります。医療系の他学部とともに救急医療を学ぶ学生サークル“救急救命サークルMeLSC”や、仲間とともに登山者のボランティア診療を行う“蝶ヶ岳ボランティア診療班”、また、診療補助として大学病院の救急現場に身を置きリアルな医療を体験する“ドクターエイド制度”などがそれにあたります。そうした活動の一つに、通常のカリキュラムの枠を超えて医師としての実践的なスキルを身につけることを目指す“Beyond the Resident Project (BRJ) 活動”があります。

BRJはより深く実践的に医療を学びたいという学生の声がかきかけとなり、教員と協力の元、学生自身が学びの場を創り運営しています。参加する学生には、積極性と主体性を持って“自らが学ぶ”姿勢と、学んだ内容を“次世代に引き継ぐ”ことが求められます。日頃の授業や実習に加え、さらにこうした活動に参加することが可能なのかと感じられるかもしれませんが、毎年多くの学生が自らの意思で活動に参加しています。

低学年生は医師となる自らの夢や想いをそのままに、臨床医から“医療とは何か”“医師の仕事とは何か”を学びます。高学年では“医師となった自分”を意識し、医師となった後の実践で役立つ診療技能を学び、高めていきます。また僻地医療研修や当直体験といった通常カリキュラムを超えたアドバンスな活動への参加を通して、医師と勤務する自分をイメージしながら自らの到達点を見極め、更なる成長の必要性を感じていきます。

BRJ活動を通して学生たちは将来医師となる自分自身をみつめ、思いを同じくする仲間や情熱ある指導医と共に過ごす濃厚な時間の中から、「医師としてのプロフェッショナルとは何か」と自らに問いかけ成長していきます。そして、医師となるためには知識や技能だけでなく医師としての“心”を身につける必要があること、そして医学部での6年間で学びのゴールではなくさらに成長するためのスタートであることに自ら気づき、卒業後の医師としてのステージで大きく飛躍していきます。

(右上のロゴマークは学生達が作成しました。右上りの“BRJ”には「現状に満足せずどんどん成長していこう」という思いが込められています。)



VOICE

学生の声



BRJ低学年コースでは、1年生のうちから正規のカリキュラムを超えて医学について深く学ぶことができます。私たちはまず、胸部単純X線画像の読影から学び始めました。気管や肺などの胸部臓器の解剖や機能、関連する疾患について自ら調べ、理解を深めました。次に心電図を用いて心臓の生理について学び、心電図から患者さんの病状を読み取る力を養いました。胸部X線の学習では、学生同士が学んだことを講義形式で教え合うスタイルで進められ、積極的に学ぶ姿勢が自然と身につきました。心電図の学びでは、所見から考えられる疾患について意見を出し合い、考える力や多様な視点の大切さを実感しました。BRJでは、医学や医療について主体的に学び、仲間とともに成長していくことができます。

医学部2年 芳井 愛実



5年次のBRJ活動では、臨床現場で一步前に踏み出せるよう、基本的な知識と技術の修得を目標にしています。私たち10期生は、胸部X線・心電図・腹部CTの読影、腹部超音波検査の手技、血液検査を用いた臨床推論などを学びました。少人数ながら主体的に取り組み、先生方の熱心なご指導のもと互いに高め合えたことに感謝しています。活動を通して成長を実感でき、今後も積極的に学び挑戦していきたいという意欲がより一層高まりました。活動で得た学びを今後に活かし、後輩へも継承していきたいと思っています。

医学部6年 大岩 歩実

ADMISSIONS INFORMATION 入学試験案内

■ 名古屋市立大学医学部医学科には、一般選抜と2つの学校推薦型選抜があります

一般選抜
(前期日程)

学校推薦型選抜
(中部圏活躍型・名古屋市高大接続型)

地域枠学校推薦型選抜

■ 試験日・試験科目・募集人員・配点等

※詳しくは募集要項をご確認ください。

試験区分	試験日	試験科目	募集人員	備考
一般入試	前期日程	2月下旬	●大学入学共通テスト ●個別学力検査 ●面接試験	60名

配点	●一般選抜:大学入学共通テスト					
	国語 125点	数学 125点	外国語 125点	地理歴史・公民 75点	理科 100点	情報 50点
	●一般選抜:個別学力検査等					
	数学 300点	外国語 300点	理科 400点	面接 200点	合計 1200点	

試験区分	試験日	試験科目	募集人員	備考
学校推薦型選抜	2月上旬	●大学入学共通テスト ●総合面接試験 (各教科の知識を問う課題 論述及び口述を含む。)	27名	合格者が募集人員に満たなかった場合は一般選抜で補充します。
		●大学入学共通テスト ●総合面接試験 (各教科の知識を問う課題 論述及び口述を含む。)	3名	合格者が募集人員に満たなかった場合は中部圏躍進型で補充します。
		●大学入学共通テスト ●面接試験	7名	———

配点	●学校推薦型選抜(中部圏活躍型・名古屋市高大接続型):大学入学共通テスト					
	国語 125点	数学 150点	外国語 125点	地理歴史・公民 75点	理科 150点	情報 50点
	●地域枠学校推薦型選抜:大学入学共通テスト					
	国語 200点	数学 250点	外国語 200点	地理歴史・公民 100点	理科 250点	情報 100点

■ 過去の入学試験結果

年度	日程	入学定員	志願者数	合格者(含追加合格者)
令和7年度	前期日程	60	207	60
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	81	27
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	12	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	25	7
令和6年度	前期日程	60	181	60
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	75	27
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	6	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	27	7
令和5年度	前期日程	60	198	60
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	85	27
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	5	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	25	7

Q & A

Q. 最新の入試情報はどこで手に入りますか？

A. 入試情報については、名古屋市立大学ホームページ(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/index.html>)を確認してください。



PHILOSOPHY AND OBJECTIVES

理念と目的

理念と目的

人間味にあふれ、
深い医学知識と技術を備えた
医師を育成すること。

人類の未来に貢献する
医学研究を行い、
その成果を社会に還元
すること。

名古屋都市圏の
中核医療機関として、
地域住民の健康と
福祉増進に貢献できる
医師を育成すること。

ADMISSION POLICY

..... アドミッション・ポリシー

医学は生命科学、心理学、社会科学、倫理学を基盤とする応用科学である。医師には、病気の原因や病態を科学的に解明し、診断法や治療法を開発する科学者としての役割、病気を治し、病人の苦痛を和らげ心身を癒す治療者としての役割、そして人々の健康を維持・増進し、人類の未来と幸福を守る社会的役割が求められる。これらの役割を果たすには、医療のプロフェッショナルとしての高度な医学知識と臨床能力、的確かつ柔軟なコミュニケーション能力、強い倫理感に基づく判断力の基盤の上に、卓越した学識と創造性豊かで高潔な人間性、そして他者の利益のために人生を捧げる献身性が必要である。さらに、今日、医療・保健活動や医学研究は、国際的な連携のもとで実施されることが多く、国際的な視野と感性も重要である。



詳しくはこちらから

概要

名古屋市立大学医学部医学科は、1943年に設置された名古屋市立女子高等医学専門学校を起源としており、その後2回の変遷を経て、1950年に現在の名古屋市立大学医学部医学科となったものです。医学部医学科の教育は、6年間にわたっており、教養教育と専門教育を一貫して行っています。専門教育では、基礎医学、臨床基礎医学、社会医学、臨床医学の全科目が必修となっており、学生は幅広い医学全般を学ぶことができます。

また、医学部附属病院において、すべての診療科で臨床実習を受けます。卒業生は、創立以来すでに5,400名以上に達しており、医療、研究、医療行政の各分野の第一線で活躍しています。

ディプロマ・ポリシー

医学部医学科では、人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を養成するという教育上の目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、卒業を認定し、学士(医学)の学位を授与します。本学医学部医学科生が卒業時点において身につけているべき能力を4領域に分けて示します。

領域Ⅰ

科学者としての医師

- ヒトの正常な構造、機能、行動および疾病の病因・病態を理解、研究し、医学の発展に貢献することができる。
- 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。
- 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明、発表することができる。
- 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全ての科学的知見は常に更新される性質のものであることを理解できる。

領域Ⅱ

臨床家としての医師

- 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。
- 医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。
- 基本的な臨床手技を行うことができる。
- 医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。
- 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。

領域Ⅲ

社会における医師

- 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。
- 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。
- 保健、医療、福祉に関する法や制度を社会的動向の中で理解し、活用することができる。
- 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。

領域Ⅳ

プロフェッショナルとしての医師

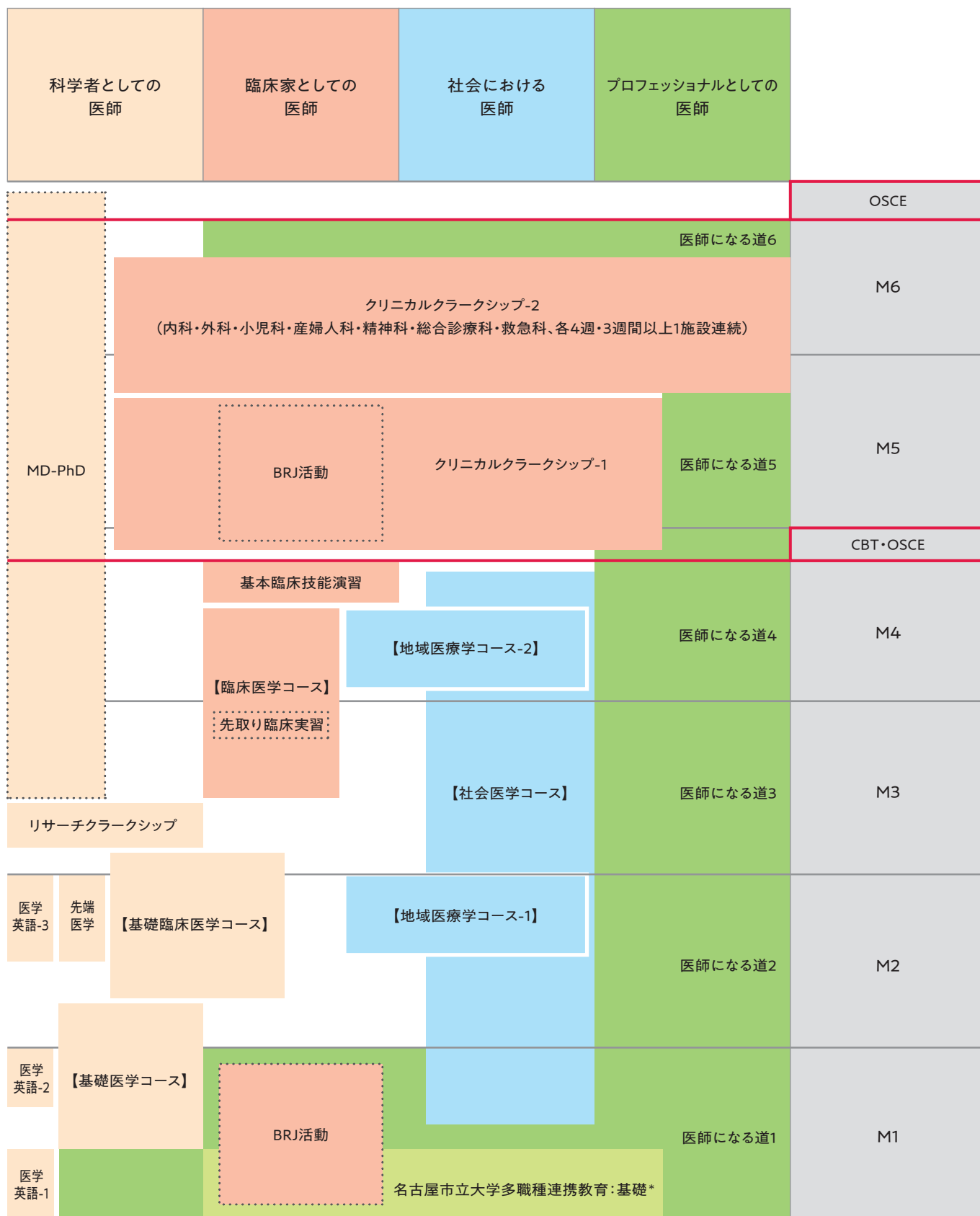
- プロフェッショナルとして人間愛と倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。
- 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
- 自分の身体的、精神的状況を把握し、ストレスに適切に対応して、必要な時には率直に支援を求めることができる。
- 継続的に自身の医学知識、医療技術の向上に務めることができる。

カリキュラムの特色

名古屋市立大学医学部医学科では、卒業時に達成すべき学修成果を4領域・17項目の能力として設定し、6年間の学びを3段階に分けた「学修成果基盤型教育(Outcome-Based Education)」を実施しています。各段階で到達すべき能力を「マイルストーン」として定め、段階的に資質・能力を高めます。さらに、4領域を回流的に学ぶ「統合型カリキュラム」により、学問分野や診療科の枠を超えた統合的な視点を育成します。6年間一貫の科目「医師になる道」では、患者中心の医療を実践するための技能・態度の習得と、プロフェッショナルリズムの涵養を目指しています。

医学部カリキュラムツリー

カリキュラムツリーとは、授業科目の系統性・体系性を可視化したものです。



選択制 *教養必須科目

初期臨床研修先

令和7年度		令和6年度		令和5年度	
名古屋市立大学病院	16	名古屋市立大学病院	19	名古屋市立大学病院	9
医学部附属東部医療センター	7	医学部附属東部医療センター	8	医学部附属東部医療センター	7
医学部附属西部医療センター	5	医学部附属西部医療センター	5	医学部附属西部医療センター	3
豊川市民病院	5	豊川市民病院	8	豊川市民病院	7
蒲郡市民病院	2	蒲郡市民病院	5	蒲郡市民病院	1
一宮市立市民病院	3	一宮市立市民病院	2	一宮市立市民病院	3
海南病院	3	海南病院	2	海南病院	3
刈谷豊田総合病院	1	刈谷豊田総合病院	3	刈谷豊田総合病院	3
その他名古屋市内	11	その他名古屋市内	13	その他名古屋市内	13
その他愛知県	22	その他愛知県	18	その他愛知県	15
岐阜県	5	岐阜県	10	岐阜県	2
三重県	3	三重県	0	三重県	0
静岡県	1	静岡県	0	静岡県	0
東京都	4	東京都	3	東京都	2
その他	11	その他	15	その他	13
43施設	99名	44施設	111名	42施設	81名

学生定員・学生数

● 学生定員

平成21年度～ …… 92名 平成22年度～ …… 95名 平成27年度～ …… 97名

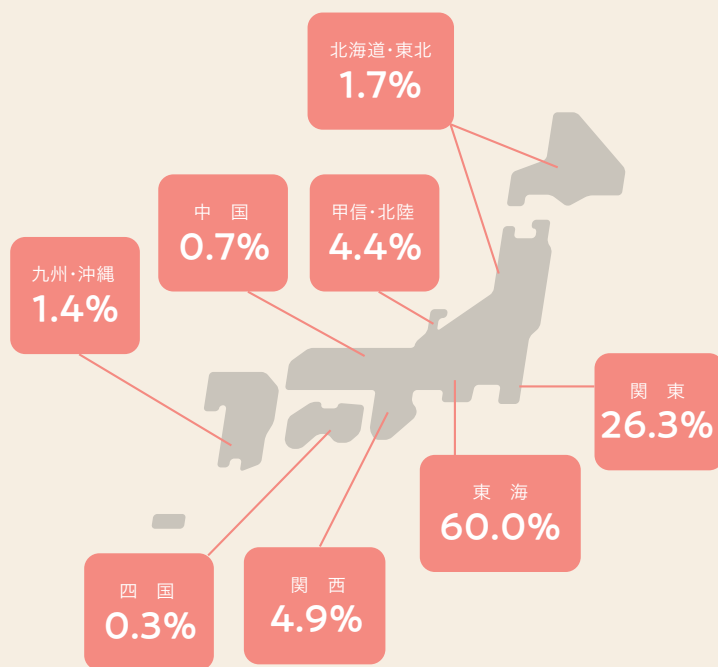
● 学生数 ※令和7年4月現在

1年生 …… 100名 2年生 …… 105名 3年生 …… 104名 4年生 …… 100名 5年生 …… 92名 6年生 …… 86名
合計 …… 587名

国家試験合格率

	新 卒			既 卒			全 体	全国平均
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率		
第115回(令和3年2月実施)	102	101	99.0%	3	1	33.3%	97.1%	92.1%
第116回(令和4年2月実施)	99	98	99.0%	3	0	0.0%	96.1%	91.7%
第117回(令和5年2月実施)	81	79	97.5%	3	2	66.7%	96.4%	91.6%
第118回(令和6年2月実施)	111	109	98.2%	3	3	100.0%	98.2%	92.4%
第119回(令和7年2月実施)	99	94	94.9%	1	1	100.0%	95.0%	92.3%

出身地(出身高校所在地別)



地域	学生数	割合
東海	352	60.0%
北海道・東北	10	1.7%
関東	154	26.3%
甲信・北陸	26	4.4%
関西	29	4.9%
中国	4	0.7%
四国	2	0.3%
九州・沖縄	8	1.4%
その他	2	0.3%
計	587	

※令和7年4月現在

卒業者数

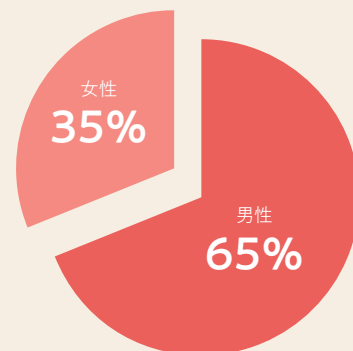
平成28年度卒業者数 …………… 110名 平成29年度卒業者数 …………… 93名 平成30年度卒業者数 …………… 98名
 平成31(令和元)年度卒業者数 …………… 92名 令和2年度卒業者数 …………… 102名 令和3年度卒業者数 …………… 99名
 令和4年度卒業者数 …………… 81名 令和5年度卒業者数 …………… 111名 令和6年度卒業者数 …………… 99名
 累計 …… 5,427名(名女医専317名 旧制128名 新制4,883名)
 医学部同窓会(瑞友会) <https://zuiyukai.com/>

※令和7年4月現在

男女比

※令和7年4月現在

	男性	女性	計	男性割合	女性割合
1年生	68名	32名	100名	68.0%	32.0%
2年生	70名	35名	105名	66.7%	33.3%
3年生	67名	37名	104名	64.4%	35.6%
4年生	63名	37名	100名	63.0%	37.0%
5年生	58名	34名	92名	63.0%	37.0%
6年生	53名	33名	86名	61.6%	38.4%
計	379名	208名	587名	64.6%	35.4%



01

伊藤 立顕さん

**本格的な学びが始まる2年生。
仲間と支え合いながら、一步步医師への道を歩んでいます。**

2年生になると滝子キャンパスでの教養科目はなくなり、桜山キャンパスでの医学の勉強の日々が本格的に始まります。2年生では解剖学や生理学を通して、人体における正常な器官や組織の構造と機能について学びます。疾患について知るためにはまず正常な状態について知る必要があります。2年生はその土台を築く期間でありとても重要であると考えています。授業は講義だけでなく実習も多くあり、解剖実習ではご献体を解剖させていただいています。ご献体を目の前にして、命の重みと医師になる者としての責任を改めて強く感じました。学ぶことが多く忙しい毎日ですが、医師になる道を確実に歩いているのだと大きな充実感も得られています。

また、2年生は1年生に対しての先輩という立場になり、部活での責任も増えてきます。部活も勉強も一気に忙しくなり大変ですが、友人達と助け合い、時に切磋琢磨しながら充実した日々を過ごしています。私は1年次から臨床的な学びが得られるBRJ活動に参加し、専門の医師の方をお招きし胸部単純X線や心電図の読み方などを双方向的な環境でご教授いただきました。その知識が2年生の学習に役立っているだけでなく、活動を共に行った仲間達とのつながりのおかげ



で日々を楽しく有意義に過ごすことができ、感謝しています。これからも人との関係を大切にしながら、地域の人々を助け信頼される医師になれるよう、初心を忘れず学んでいきたいです。

島崎 壮真さん

知識とともに、人としても成長できる場所。
名市大で、医師への土台をしっかりと築いています。

3年生になると、これまで学んできた人体の「正常な」仕組みに加え、微生物や病理、免疫などの観点から人体の「異常」の原因やそれに対する身体の反応、その治療の基礎について学び始めます。各分野で得た知識が次々につながっていく感覚があり、人間の体系を理解する面白さをより実感しています。3年生の秋からは、3ヶ月間研究室に所属し、その分野の研究に実際に触れることで、探究心が刺激され、知的好奇心が掻き立てられる経験ができると思います。

部活やサークルでは、幹部として活動の運営や部員の取りまとめを担い、同期や先輩、後輩とのつながりもこれまで以上に深くなっていきます。また名市大には、学生の質問や相談にとっても親身になって応えてくださる先生が多くみえます。私は、授業やアルバイトを通して、先生方や医師、地域の方々と関わることで、様々な人間性に触れ、学ぶことは、医師にとって不可欠であることを強く意識するようになりました。

よく言われる言葉ですが、私は『病んでいる部分だけを見るのではなく、病に苦しむ人と向き合うことの大切さを知る医師』になりたいと考えています。こうした多くの方々と関わった経験は、私の医師としての向き合い方や捉え方を柔軟

にし、豊かにしてくれていると思っています。

環境の整った名市大で、正しい知識を蓄え、人間性を磨きながら、医師としての素地をしっかりと培っていきたいと思っています。



03

古田 優菜さん

海外での経験も、自分を大きく変えてくれた。
広い世界を見つめながら、医療を学んでいます。

4年生になり、『病気を治療する』医師としての自覚がより一層強くなりました。『臨床医学』の講義や実習が始まり、病院の各診療科にあたる科目を学べるためです。疾患の原因や症状、診断法や治療法など、より実践的な知識を学ぶことで、将来への直接的なつながりを感じ、さらなるやる気が湧いてきます。1~3年生で学んだ基礎医学の知識が結びつく瞬間はとてもワクワクします。

4年次には、病院での診療参加型臨床実習を行う資格を得るための試験が2つも控えています。1つ目のOSCEは実技試験であり、実際に体を動かして手技を学んでいきます。2つ目のCBTでは、4年生までに学習した範囲の総合的な理解が問われ、臨床実習に必要な医学知識が身についているかが試されます。

学校の勉強以外についても少し話してみましょう。最近、特に英語の勉強に力を入れています。名市大では3年次に、約3か月間にわたり研究に取り組む期間が設けられ、私はオーストラリアの研究室に配属されました。このプチ留学では、新たな友達が沢山できて素敵な思い出をたくさん作ることができました。また視野が広がるとともに自分の可能性



が大きく広がるのを実感しました。一方で、世界中のあらゆる人との架け橋となる英語の偉大さや、自分の英語力の拙さを痛感し、悔しく感じる場面も多々ありました。この貴重な経験を糧に、『国境を越えて、医療を学び、施せる人』を目標として、英語力の研鑽に励んでいます。

最後になりますが、沢山の成長と素敵な学生生活を支えてくださっている先生方と学生の皆さんには感謝でいっぱいです。素敵な医師になるために、これからも皆と切磋琢磨しながら、貪欲に学び続けていきます。

**患者さんのそばで、リアルな医療にふれる毎日。
見て、考えて、動いて、学ぶことの連続です。**

5年生は診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)と呼ばれる実習が中心となる学年です。臨床実習生として各診療科で2~4週間、医療チームの一員として日々の診療に参加し、1年かけて全ての科の診療を経験します。実習中は名古屋市立大学病院及び実習協力病院で問診・回診、採血などの侵襲的な医療行為、電子カルテの記載、検査画像や数値を基にした指導医の先生とのディスカッション、症例レポートの記載およびカンファレンスでのプレゼンテーションなどを実施します。実習を通し、将来医師として働く上で必要な多くの知識や技能、そして立ち居振る舞いを学ぶ機会が与えられます。

指導医の先生とのディスカッションにおいては、患者さんの基礎疾患なども考慮した上で、どのように身体所見や臨床検査値を解釈するのか、診断の過程から治療の方針の立て方まで議論することになります。疾患ごとの1対1対応の知識同士をつなげて推論することがこれまでの座学よりも重要となり、私はその点が実習で一番難しいがおもしろい点であると感じています。

実習以外の学習については、学生の学ぼうとする意欲に

快く応えてくださる先生方が多く、勉強会が不定期に開催されることがあります。また、名古屋市立大学にはBRJ (Beyond the Resident Project)と呼ばれるいち早く臨床スキル(胸部X線画像の読影など)を習得することを目標とする選択制コースの他、MD-PhDコースと呼ばれる基礎研究に取り組める選択制コースが存在します。臨床と研究の両方に取り組みたいと考えている私にとって最高の環境で学習させて頂けていると感じています。



卒業後の医師臨床研修について

医学部を卒業、医師国家試験に合格し、医師免許を取得した後は、2年間の初期臨床研修、その後の専門医取得まで、研修期間が用意されています。

名古屋市立大学病院では、卒業後も皆さんをバックアップし、必要な能力を身につけるための充実した臨床研修プログラムを用意しています。

初期臨床研修コースのご案内

自分色を最大限引き出す自由と柔軟性、多彩な環境。私たちの研修コースは、以下の4つを基本としています。

大学2年コース

総合内科や救命救急センター、大学病院ならではの専門に特化した密度の濃い研修

たすきがけコース

大中小規模な一般病院と大学病院それぞれのメリットを生かしたハイブリッド研修

小児科重点コース

全国の実験である“伝統の新生児医療”を含め高度な小児科医療を学ぶ

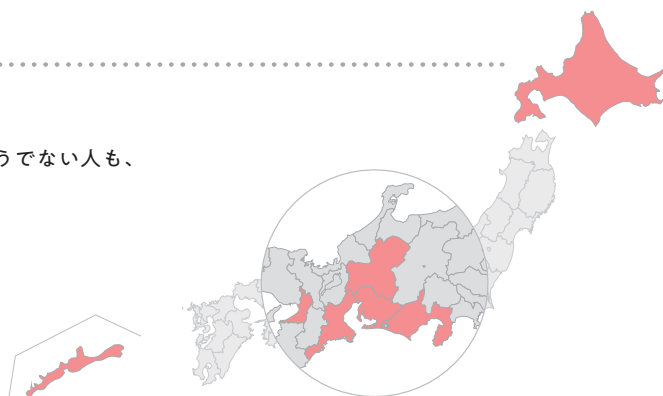
産婦人科重点コース

女性のためのプライマリケア能力の基盤養成と高度な産科婦人科医療を学ぶ

協力病院との強力なネットワーク

「たすきがけコース」など、将来のビジョンが定まっている人も、そうでない人も、多彩な病院の中から適した研修先を選ぶことができます。

- 全国約50の施設
- 複数の病院を経験
- 一般病院で最長1年
- 自由度の高いローテート



名古屋の医療を支える最大の病院群



西部医療センター

成育・がん治療

小児・周産期
消化器腫瘍
呼吸器腫瘍
脊椎
放射線診療
陽子線
生殖医療



名古屋市立大学病院



みらい光生病院

長寿医療

先進リハビリ
脳神経
心身機能回復維持
アンチエイジング



東部医療センター

救急医療

心臓血管
脳血管
消化器内視鏡
内視鏡下手術



みどり市民病院

治し支える医療

急性期医療
地域包括ケア
二次救急
予防救急



リハビリテーション病院

回復期リハビリ

脳血管
骨折
整形外科術後
心臓リハビリ
医療／福祉連携

長きにわたりキャリアパスをサポート



事例案

内科専攻研修

初期研修	1 年次	総合診療科・総合内科	救急科・救急診療	外科	小児科	地域	精神科	産婦人科
	2 年次	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科		脳神経内科		
後期研修	3 年次	内分泌・糖尿病	腎臓内科	血液内科		膠原病内科		
	4 年次	連携病院			サブスペシャリティー			
	5 年次	サブスペシャリティー						
		内科専門医：卒業 6 年目に受験			内科サブスペ専門医：卒業 7-8 年目に受験			

初期研修1年次に必修を可能な限り取得。2年次以降内科全般を学び、総合内科専門医取得に努める。
サブスペシャリティー専門医を取得後、大学院研究等に進むこともできる。

外科専攻研修

初期研修	1 年次	救急科・救急診療	総合内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科	循環器内科	麻酔科	小児科	精神科	産婦人科
	2 年次	地域	乳腺外科	心臓血管外科	小児外科	呼吸器外科	消化器外科				
後期研修	3 年次	連携病院									
	4 年次	連携病院									
	5 年次	連携病院					サブスペシャリティー				
		外科専門医：卒業 6 年目に受験					外科サブスペ専門医：卒業 7-8 年目に受験				

初期研修1年次に必修を可能な限り取得。2年次から外科を広くローテーションし、サブスペシャリティーを早期に開始し、外科専門医を最短で取得することを目指す。

教員からのメッセージ



みらい光生病院 リハビリテーション医学
教授

植木 美乃

本学医学部を目指す学生さんへ向けて。

皆様は大学医学部での学生生活や勉強はどのようなものと考えておられますでしょうか？

一概に医学部といっても臨床医になりたい学生、基礎研究を行いたい学生、留学したい学生等様々な希望や目標があると思います。

名古屋市立大学医学部では現代の多様性に合致した様々な基礎/臨床の実習や講義を行っております。早い時期より最先端の医学研究にふれたり、医療他職種の学生達と連携した実習やカンファレンスを行ったり、希望者には海外への短期留学を斡旋したり、様々なニーズに合わせた教育プログラムを持っています。

私自身も学生時代に基礎の研究室で実験を教えてもらったり、国内学会に参加をさせてもらったり、米国ロサンゼルスの大

学に短期留学をしたり、同級生らとグループで医師国家試験の勉強会をしたりと様々な思い出があり、すべてが現在医師として働く上での糧となっています。

また、女学生さんは医者になった後はどの様に社会で働いて行くのだろうと不安も沢山あるかと思います。名古屋市立大学と関連病院群では多くの女性医師や研究者が活躍しており、きっと皆さんのロールモデルとなる方を見つける事ができると思います。

学生時代に様々な経験をして下さい。チャレンジして下さい。それが皆さんの医師や研究者としての豊かな人間性の基盤になると考えます。そして、将来、名古屋市立大学で共に勉強し大学病院群や関連施設で共に働くことを楽しみにお待ちしております。



環境労働衛生学
教授

上島 通浩

研究を通して世界にはばたく夢を。

皆さんは、「医師」としての将来に何をイメージしますか？医学部卒業後の進路には、病院で白衣を着て診療する臨床医に加え、基礎医学や社会医学への道の選択肢があります。基礎医学は、「ヒト」という「自然」の神秘に生命科学のアプローチで迫ります。また、社会医学は、健康で安心・安全な生活を、社会や集団の中で実現する医学です。名市大には、臨床、基礎、社会医学ともに、皆さんの未来が大きく広がる環境が整っています。ぜひ世界的な視野を持ち大きくはばたいて下さい。

地域医療への強い使命感を持って「地域枠」を志願して入学される方を除き、進路を急いで決める必要はありません。臨床医学を学び将来進む診療科を考える前に、基礎・社会医学の教室で研究に触れる機会があります。そこでさらに深く興味が湧けば、大学院の研究指導を前倒して行うMD-PhDコースも用意されています。

様々なことに是非チャレンジしてください。

私は、社会医学の中の「生を衛(まも)る学問」、衛生学を専門とする医師です。環境が健康に与える影響を研究し、その予防のための社会の意思決定に関与しています。個人だけでなく国全体や世界の人々の健康を守る、やりがいのある仕事です。社会医学にはこのような研究者の道以外にも、国の施策立案、地域住民や企業従業員の健康維持に携わる広義の公衆衛生医、死因の究明等を行う法医学の研究者…など、幅広い活躍の場があります。

世界を目標に医学・医療の発展に一生を捧げる夢を抱くあなた、一緒に学びませんか？

卒業生からのメッセージ



東部医療センター 眼科 教授

野崎 実穂

私は、小学生の頃の怪我をきっかけに、医師を志しました。

名古屋市立大学医学部へ入学し、臨床実習で白内障手術に魅了され、さらに術後の患者さんが大変喜ぶ姿に感動して、眼科医となりました。

卒業後は、名古屋市立大学病院での研修を経て、アメリカへ2年間研究留学、帰国後、名古屋市立大学病院から、2022年9月に名古屋市立大学医学部附属東部医療センターに異動しました。

医師という職業は、臨床で生まれた疑問を、研究によって解決できる点に魅力がある

と思っています。なかなか、医師が研究をするというイメージは湧かないかもしれませんが、名古屋市立大学医学部では学生の段階から研究に触れられる機会がありますので、ぜひ活用してほしいと思います。

今後も、「目の前の患者さんを治すことだけでなく、目の前にいない患者さんを治すことも大切」という先輩からの言葉を胸に、日々研究や教育に力を注いでいきたいと思っています。

高校生活では、悔いの残らないように、興味のあることには全力で取り組んでください！



博士課程3年
細胞生理学分野
[MD-PhD コース在籍]

杉浦 有優さん

私は医学部を卒業後、臨床研修中に大学院入学し、研修修了後は泌尿器科に入局しました。現在は子育てをしながら基礎研究と臨床の仕事を続けています。

私が研究を始めたのは大学3年生の研究室配属のときです。その期間におこなった膀胱平滑筋に関する研究を論文として世界に発表できたことに大変興奮し、MD.Ph.Dコースに所属して研究を続けることにしました。はじめはあまり膀胱には興味がなかったのですが、気づけば泌尿器科医になっていました。

泌尿器科では女性医師が少ないので、女性の患者さんから喜んで頂けることが

多くやりがいを感じています。また、実際に困っている患者さんに接することが研究のモチベーションになっています。これからは研究してきたことを活かし、排尿障害の治療に携わってみたいです。

皆さんが今どんな医師を目指せばいいか迷っていても、この大学で様々な経験をするうちに自分の進みたい道がみえてくると思います。ぜひ名古屋市立大学医学部で自分の生きる道を見つけてください。



開業医
[あおきクリニック]院長

青木 茂さん

平成4年に本学を卒業し第1内科に入局、複数の病院で勤務したのち、平成20年に開業しました。その間に名古屋市立大学に研究医として戻り、博士号を取得しました。

医師になると決意したのは、胃癌による親戚の死がきっかけでした。それまでも漠然と“医師になりたい”という思いはあったものの、身近な親戚の末期癌を目の当たりにしたことで、医者になり患者を助けたいという意思が明確になりました。卒業後は胃癌や大腸癌の早期発見、早期治療を目指し内科医として内視鏡の技術を磨き、現在は自

分のクリニックで内視鏡検査に日々力を注ぎ、癌の早期発見に努力しています。

医者になるためには膨大な知識や経験が必要であり、大変なこともあります。医者として働き、患者さんに感謝されたときはとてもやりがいを感じることができます。今後も地域に密着した医療を提供していきたいと思っています。

医師を目指す皆さんには、ぜひ一度、医者として何をやりたいのか自分に問いかけてみてほしいと思います。

ROAD TO RESEARCHERS

研究者への道

研究者への道・MD-PhDコース

良医の育成ー卒前・卒後教育における研究の重要性ー

医師は科学者です！ 医師は、日常診療の中で無意識に科学的な考え方で患者さんと向き合っています。問診で症状を聞き、科学者として原因やその病態を頭で考えています。そして、血液検査やCT検査等により正しく科学的に診断し、安全が保証された治療へと繋げています。

医師の責務は、目の前の患者さんを治療することに加え、科学者として病気に苦しむ患者に対する新しい治療の開発も重要であることを、忘れてほしくないと考えています。“良医”の育成を目指す名古屋市立大学医学部医学科は、「科学者としての医師」および「臨床医としての医師」を育成する卒前・卒後教育システムを充実させています。

医学部医学科3年の約3ヶ月は、全ての学生が基礎自主研修に参加し、医学研究に携わります。希望者はMD-PhDコースに参加し、早い段階から医学研究者としての仲間入りをしています。また多くの卒業生は、初期研修／後期研修が修了する頃には大学院博士課程に入学し、科学者としての能力に磨きをかけています。

「科学者としての医師」および「臨床医としての医師」としての能力が備わった医師こそが本当の「良医」だと、我々は考えています。

MD-PhDコース

[設立趣旨]

「MD-PhDコース」は医学研究を志向する医学部医学科学生に対し、早期に研究の機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手医学研究者を養成することを目的として平成20年度(2008年)に設立されました。

[コース概要]

このコースは、医学部期間の前期コースと、大学院期間の後期コースの二つのコースで構成されます。このコースを希望する学生は、学部4年次9月末までに前期コースに入り、希望する基礎医学分野で研究に従事します。また6年次にそれまでの研究成果を英語原著論文などの著者として公表し、審査会で前期修了の審査を受けます。これまでに約80名が前期コースに所属しました。

医学部医学科卒業後は、名古屋市立大学病院を主とした臨床研修プログラムで初期研修を実施しながら、臨床研修2年目から後期コースへ入学することもできます。後期コースでは卒業後8年目までに基礎医学分野又は臨床医学分野の大学院に入って研究を続け、博士課程3年次に研究成果を学位論文にまとめ、所定の審査を受け合格した場合には、4年間の修業年限を待たず、早期修了し学位を得ることも可能です。

医学部医学科

卒業後の年数

1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

●学部卒業後、すぐに大学院に進学した場合



●学部卒業後、8年以内に大学院に進学した場合



川久保奨学金

[奨学金制度]

MD-PhDコースの学生は「川久保学生奨学金」を申請することができます。

[川久保学生奨学金について]

川久保己代子様からのご寄付によって、「医学研究者の人材育成に役立てる」ことを目的に本奨学金が創設され、以下に該当するMD-PhDコースの学生を対象に支援しています。

- MD-PhD前期コースに所属する医学部医学科学生15名に対し、毎年、研究支援を目的として10万円を授与します。
- MD-PhD後期コースに所属する医学研究科博士課程大学院生で、基礎医学系分野を選択する者のうち、本学にて同分野の研究に専念する者2名に対し入学金及び3年間分の授業料と同額の奨学金を授与します。
特に、基礎医学系分野の研究を志す学生にとっては、大変恵まれた支援制度です。将来、医学研究を担う人材が川久保学生奨学生の中から多く育つことが期待されております。

大学院博士課程

● アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

● 教育研究上の目的

- 高度な専門教育および研究指導により、医学研究および医学教育を担う人材を育成する。
- 人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元する。
- 名古屋都市圏の中核医療機関として、地域住民の健康と福祉を増進する。

● 人材養成に関する目的

博士課程では、独創的な研究を行う最先端の医学研究者、先端的な医療知識・技術を有した臨床医、さらにはそれらの知識・技術に基づき、医学教育を担い得る人材の養成を目的とする。

● 人材養成に関する目的

- 将来の医学研究をリードする国際的医学研究者を志す人
- 高度最先端医療を創出し、実施する医療人を志す人

● 修得しておくべき知識の内容・水準

欧文論文読解と作成のための英語能力に加えて、医学・医科生命科学研究遂行に必要な理系大学学部、あるいは大学院修士課程修了レベルの生命科学・基礎医学知識を有すること。または高度最先端医療の実践を目指す基礎的医療技術と知識・経験を有すること。

● 概要

医学研究科博士課程は、基礎医学、臨床医学の枠を超えた横断的な生体機能・構造医学、生体情報・機能制御医学、生体防御・総合医学、予防・社会医学の4専攻から構成されています。基礎医学研究者と臨床研究者とが自由に最先端の医学研究を共同で実施できる体制を組織して大学院生の教育にあたり、独創的かつ応用範囲の広い医学研究者及び高度の医療知識と技量を備えた医師を養成することを目的としています。脳神経科学研究所は、神経発達・再生医学、神経毒性学、腫瘍・神経生物学、神経発達症遺伝学、認知症科学、認知機能病態学の6部門で構成され、高度な研究を行っています。

RESEARCH CONTENTS CLASSIFIED BY SPECIAL FIELDS OF STUDY 研究分野一覧

専攻	講座名	専門分野名	研究内容
		担当教員名	
生体機能・構造医学専攻	基礎医学	統合解剖学	(1) 脳機能発現と脳神経疾患の病態の調節に代謝系、免疫系が及ぼす分子基盤を、ニューロン・グリア相関や粘膜免疫系に着目しながら、機械学習などのAIを併用し探究する。 (2) ヒトと動物で脳イメージング技術を駆使し、リハビリテーションによる治療の介入を最適化するための治療標的と予後マーカーを探索するとともに、それを分子標的とする先端リハビリテーション技術の研究開発を行う。
		植木 孝俊 教授	
		機能組織学	感覚器と脳の両面でシームレスな研究を展開
		鷗川 真也 教授	(1) 聴覚・味覚受容に関する遺伝子の同定と遺伝子改変動物を用いた機能解析 (2) 成体脳海馬の新生神経に関する形態学的・分子生物学的・生理学的研究
		分子腫瘍学	プロテオミクスを起点とする多層オミクス解析を武器に、分子レベルでがんの本質を解き明かし、その克服を目指しています。
		田口 歩 教授	(1) プロテオーム解析手法の革新と次世代プロテオミクスの創成 (2) がん早期診断と治療個別化に資する血液バイオマーカーの開発 (3) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子機構解明と分子標的治療の開発
		細胞生化学	繊維は細胞外に突出したアンテナ状の細胞小器官で、様々な疾患との関わりが知られている。我々の研究室では以下の研究テーマに焦点を当てている。
		加藤 洋一 教授	(1) 繊維形成の制御機序の解明 (2) 繊維によるシグナル伝達の制御機序の解明 (3) 繊維病の病態機序の解明 (4) 様々な疾患における繊維の役割の解明 (悪性腫瘍、不育症など)
		細胞生理学	平滑筋およびその周辺細胞に関する機能的、形態学的研究
		橋谷 光 教授	(1) 平滑筋自発活動の発生伝播機構 (2) 平滑筋機能の神経性・液性制御機構 (3) 内臓組織における微小血管の機能特性 主要実験方法: 電気生理学的手法、細胞内カルシウムイメージング法および蛍光免疫染色法
		脳神経生理学	神経科学と神経生理学的手法を駆使し、病態生理学的な視点のアプローチから3つのプロジェクトの研究を実施し、脳神経系の生理機能の解明にアプローチしています。(1) リハビリテーションによる脳内出血後の前肢運動機能の回復メカニズムの解析 (2) 新生仔白質損傷モデルでの幹細胞(ES細胞/iPS細胞)移植による機能回復のメカニズム解析 (3) うま味摂取により起動する腸-脳相関による情動形成メカニズムの解析
		飛田 秀樹 教授	
	病態外科学	消化器外科学	臨床応用を目的とした消化器癌の増殖、浸潤、転移、血管新生に関する分子生物学的メカニズムの解明、癌と炎症、栄養治療による炎症反応の修飾機構の解明、内視鏡手術の手術術式の開発、癌の免疫・化学療法、周術期外科感染症。
		瀧口 修司 教授	
		呼吸器・小児外科学	肺癌や胸腺上皮性腫瘍などの胸部悪性腫瘍に対する外科的・分子標的治療に関する研究。特に、胸部悪性腫瘍に対する低侵襲手術の臨床的および科学的有用性に焦点を当てた研究。
		奥田 勝裕 教授	
		腎・泌尿器科学	尿路結石の分子機構の解明、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、宇宙医学(特に尿路結石と生殖)、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、先天性疾患の発生機序、小児泌尿器科学、遺伝子診断法・治療法の開発、排尿メカニズムの解明、泌尿器疾患のエビゲノム制御、ロボット工学、VR技術
		安井 孝周 教授	
		心臓血管外科学	
		(未定)	
		乳腺外科学	①乳癌のホルモン依存性増殖機構の解明に関する研究、②ホルモン療法効果予測因子に関する研究、③トリプルネガティブ乳癌に関する研究、④乳癌の予後予測因子に関する研究
		遠山 竜也 教授	
		小児泌尿器科学	
		(未定)	
	感覚器・形成医学	視覚科学	網膜硝子体疾患の病態解明の基礎研究、画像機器による診断・治療に関する臨床研究、AIの活用に関する研究 (1) 加齢黄斑変性の病態解明(脂質代謝メカニズム・マクロファージ・肥満細胞の役割の解析) (2) 眼科ドラッグデリバリーシステム(DDS)(眼内薬物徐放システム)の開発 (3) 細胞シートを用いた再生医療 (4) マルチモーダルイメージングによる網膜静脈閉塞症の病態解析 (5) ナビゲーションシステムを使った糖尿病黄斑浮腫の局所レーザー治療 (6) 眼科領域におけるAI支援画像機器の開発及びデータモニタリングシステムの開発
		安川 力 教授	
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1. ウイルスに起因する急性聴平衡障害の包括的病態解明と新規治療への応用 2. 全脳機能解析に基づく両側前庭障害の重症化のメカニズム解明と新規治療への応用 3. ウイルス性顔面神経麻痺のモデル動物を用いた顔面神経麻痺の分子機構の解明 4. めまい・平衡障害に対するノイズ前庭電気刺激を利用した新規治療、前庭リハビリテーションの開発 5. 頭頸部がんの免疫機構の解明と腫瘍溶解ウイルスによる新規治療の開発 6. 発声障害の新たな客観的評価法の開発、痙攣性発声障害の病態解明と新たな手術治療の開発
		岩崎 真一 教授	
		加齢・環境皮膚科学	難治性皮膚疾患に対する光線療法の機序解析と開発、樹状細胞によるアレルギー疾患・自己免疫疾患・悪性腫瘍の治療、環境因子(タバコと紫外線)による皮膚老化の機序解析、皮膚免疫制御による末梢性トランスの誘導
	感覚器・形成医学	森田 明理 教授	
		口腔外科学	顎骨再生に関する基礎的・臨床的研究、口腔前癌病変の治療に関する基礎的・臨床的研究、インプラントによる治療法の開発、顎骨再建と口腔機能回復に関する基礎的・臨床的研究、口腔ケアに関する研究
		渋谷 恭之 教授	
		形成外科学	創傷治癒遅延とその救済、脂肪幹細胞による軟部組織再建、リンパ浮腫とリンパ管再生
		鳥山 和宏 教授	
生体情報・機能制御医学専攻	病態医学	実験病態病理学	前立腺癌化学予防に関する実験病理学的研究、前立腺癌、乳癌、婦人科腫瘍、消化器疾患の発育・進展に関わる臨床病理学的解析、ギャップ結合タンパクから見た実験的肝がん研究、健康食品を含む環境物質の発癌修飾作用およびその分子生物学的機構解明に関する研究、ヒト疾患モデル動物を用いた実験的腫瘍病理
		高橋 智 教授	
		臨床病態病理学	
		(未定)	
		薬理学	イオンチャネルを免疫・炎症疾患、癌、育疾患、循環器疾患の創薬標的分子として捉え、次のような研究を行っている。①免疫系・炎症性疾患における免疫細胞の機能変動とイオンチャネル活性・発現制御 ②がん悪性化・がん免疫とイオンチャネル活性・発現制御 ③骨関連疾患とイオンチャネル活性・発現制御 ④心臓のメカトランスダクションにおけるイオンチャネル活性制御 ⑤イオンチャネル作用薬の開発
		大矢 進 教授	
		細菌学	A群レンサ球菌などの病原細菌の感染症発症のメカニズム、細菌毒素蛋白質の機能・発現機構の解析、重症細菌感染症に対する新たな治療法の開発
		長谷川 忠男 教授	
		免疫学	樹状細胞、制御性T細胞を利用した免疫制御の研究と様々な病態の基盤解明・治療開発
		山崎 小百合 教授	
		ウイルス学	(1) Epstein-Barrウイルス(EBV)関連がんの遺伝子解析と治療法開発 (2) 慢性活動性EBウイルス感染症の原因解明 (3) 新型コロナウイルス感染症の治療法開発 (4) 希少疾患(小児がん、遺伝性造血不全症候群等)の原因解明と治療法開発
		奥野 友介 教授	
		病態モデル医学	ゲノム編集技術による遺伝子改変動物の作製と表現型解析を通じて、(1) 細胞膜タンパクの再利用経路が個体の初期発生や分化に与える影響を明らかにする。(2) 生殖加齢に伴うホルモン・エビゲノムの変化を明らかにして、妊・妊後の向上を目指す。ことに興味を持って研究を進めています。
		大石 久史 教授	
	社会復帰医学	整形外科科学	1) 腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯の変性メカニズム、2) 高悪性軟部腫瘍に対する温熱放射線化学療法、3) 小児股関節疾患の病態、4) 人工神経による末梢神経の再生、5) 前十字靭帯(ACL)不全膝、並びにACL再建膝の動態、6) 関節リウマチ(RA)発症機序、7) RAの薬物療法や手術療法による治療効果、8) 肩肘球関節に関する基礎および臨床研究、9) 外傷性骨軟骨欠損に対する再生医療、10) 大腿骨頭壊死の病態解明とそれに基づく治療法の開発
		村上 英樹 教授	
		リハビリテーション医学	① 非侵襲的計測法を用いた運動・認知機能評価、ニューロリハビリテーションの開発、② 股関節症術後の装着型サイボーグを用いた新規リハビリテーションシステムの開発 ③ パーキンソン病関連疾患におけるclosed loop stimulationを用いた新規歩行リハビリテーションの開発 ④ AIを用いたリハビリテーション効果の予測・最適化 ⑤ 神経難病のリハビリテーション現状における全国調査
		植木 美乃 教授	
		精神・認知・行動医学	気分障害・不安障害・心的外傷後ストレス障害・摂食障害・がん患者の認知行動療法・対人関係療法・デジタル技術を用いた治療開発研究。気分障害・統合失調症の家族介入・家族心理教育開発研究。発達障害・不登校児童・家族のQOL向上および介入法の開発研究。難治性うつ病の治療最適化研究(mECT, TMSなど)。周産期を含めたコンサルテーションリエンゾン精神医学・精神腫瘍学・緩和医療学・てんかん学・学生メンタルヘルス・地域精神保健領域の研究も実施。
		明智 龍男 教授	
		精神腫瘍学(連携大学院)	がん患者・市民参画による支持・緩和・心のケア開発、がんサバイバーと進行がん患者のケアプランに関する研究、共感的コミュニケーション研究、心理師・看護師・医師協働ケアに関する研究、小児・AYA世代、高齢者のQOLと総合機能評価に関する研究、がん患者の家族・遺族支援に関する研究、がん医療に従事する医療スタッフの教育システムの開発研究、デジタルメンタルヘルスの実装科学研究、ビッグデータを用いたがん対策研究など
		藤森 麻衣子 教授	
		脳神経外科学	虚血性脳血管障害の外科、脳損傷修復の分子機構、クモ膜下出血、水頭症、頭蓋内圧亢進の病態に関する分子生物学的研究、頭蓋底外科、定位脳手術、脳血管内手術の新手法開発、パーキンソン病に対する外科療法の開発、びまん性脳損傷の病態解析と治療法の開発、幹細胞移植による神経機能回復法の開発、手術支援画像技術の開発、新しい機能的脳外科手術の開発導入
		間瀬 光人 教授	

専攻	講座名	専門分野名	研究内容
		担当教員名	
機能制御医学専攻	生殖・遺伝医学	産婦人科学	不育症病態解明・着床前診断・出生前診断胎児治療・周産期医学・生殖免疫・生殖補助技術・生殖器官腫瘍発生機序・遺伝カウセリング・エコロジー&チルドレンバースホート研究
		杉浦 真弓 教授	
		新生児・小児医学	
		齋藤 伸治 教授	新生児中枢神経障害の成因解明と新しい治療法の開発・新しい新生児呼吸循環管理法・小児内分泌疾患の診断と治療・先天性心疾患の包括的管理・小児悪性腫瘍の診断と治療・小児肝疾患の発症機構・小児神経疾患の原因と病態解明・ゲノム医学を用いた小児疾患の病態解明・再生医療の小児医療への応用・発達障害の評価と介入方法の開発
		認知症科学	
		齊藤 貴志 教授	
		腫瘍・神経生物学	小児および成人の脳腫瘍の発生と進行の機序を解明し、それに基づいて新たな治療標的分子を特定することを目指す。特に、ヒトの疾患を反映した自然発症する脳腫瘍マウスモデルの開発に注力しており、神経発生学、腫瘍生物学、および情報生物学を融合させた独自の視点から新たながんシグナルの解明に取り組んでいる。また、ヒト患者由来の腫瘍を移植したモデルを用いた薬理学的実験を通じて、基礎研究と臨床研究の架け橋となる研究を、欧米との国際的な共同研究を交えて推進する。
		川内 大輔 教授	
		神経発達遺伝学	
		山川 和弘 教授	神経発達障害には、遺伝子の異常の寄与が大きいことが今までの研究によって明らかにされ、多くの原因遺伝子が同定されてきています。我々のグループでは、発達障害や知的障害、更にはそれに合併するてんかんの発症に関わる複数の原因遺伝子の同定、更にはモデル動物の作成や、それを用いた発症機序の解明を進めてきました。現在、これらの知見に基づき、遺伝子治療法を含め、全く新規で真に有効な治療法の開発を目指し、日々研究を進めています。
		神経毒性学	
		酒々井 眞澄 教授	
		神経発達・再生医学	中枢神経系の発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用をめざして、成体脳における神経幹細胞の増殖・分化と新生神経細胞の移動・成熟機構を中心に、歯髄類と霊長類、正常動物と疾患モデルを比較しながら研究する
		澤本 和延 教授	
		認知機能病態学（寄附講座）	
		野村 洋 教授	記憶・学習や情動の神経メカニズムの解明。特に in vivo 神経活動の測定や操作、神経回路の選択的な可視化による脳神経ネットワークの解析。記憶や情動の破綻に関わる神経疾患、精神疾患の病態解明、新規治療法・予防法の開発。（注）寄附講座は、設置期間に期限があります。
		消化器・代謝内科学	1. 消化器癌の新規診断、治療マーカーの探索、2. 消化管癌に対する光線力学診断法、治療法の開発、3. 炎症性腸疾患の新規薬物療法の開発、4. IgG4関連疾患や自己免疫性膵炎に対する新規診断・治療法の開発、5. 悪性胆道や消化管狭窄に対する金属ステント治療法の確立と力学的観点を含む集学的検討、6. 非アルコール性脂肪肝炎治療法の開発、7. 肝発癌抑制のための治療法の開発、8. ウイルス肝炎におけるウイルス・ヒトゲノム解析、9. 糖尿病・脂質異常症・肥満症・内分泌疾患の病因病態の解明と新規治療標的分子の探索
		片岡 洋望 教授	
		呼吸器・免疫アレルギー内科学	1. 心不全に対する個別化診断および治療戦略の開発に関する研究 2. 循環機能を評価するための先進的なエコーおよび画像診断技術の開発 3. 構造的な心疾患における病態生理の解明と治療の最適化に関する研究 4. 虚血性心疾患の新たな評価と理解に向けた標的としての冠微循環の研究 5. 高血圧の予防および管理における生活習慣および環境要因の影響に関する研究
		（未定）	
		循環器内科学	
		瀬尾 由広 教授	①慢性腎臓病に伴う合併症、特に腎性貧血、骨ミネラル代謝異常に関する研究、②腎臓のサイズに着目した糖尿病性腎臓病とうっ血腎の研究、③急性腎障害に関する研究、④心腎連関の病態解明に関する研究
		腎臓内科	
		濱野 高行 教授	
		神経内科学	①臨床神経学 ②パーキンソン病関連疾患の臨床 ③アルツハイマー病を中心とした認知症の臨床 ④病態生理に基づいた神経疾患画像バイオマーカーの探索 ⑤神経ペプチドから視たアルツハイマー病病態解明 ⑥新規アルツハイマー病モデル動物を用いた治療薬開発の基盤研究
		松川 則之 教授	
		血液・腫瘍内科学	
		飯田 真介 教授	①造血器腫瘍を中心とした癌の分子病態解析、新規治療標的分子の同定、分子標的薬の効果と毒性を予測するバイオマーカー研究、薬剤耐性化機序の解明とその克服に関する研究、②抗体療法やキメラ抗原受容体導入T細胞(CAR-T)療法を中心とする新たながん免疫療法の開発研究、③がん薬物療法の臨床試験、臨床治験の計画・実施によるエビデンスの創出
		麻酔科学・集中治療医学	
		祖父江 和哉 教授	
		放射線医学	①種々の画像診断機器を駆使した先端の画像診断研究、②人工知能を応用した放射線医療の構築、③新たな画像下治療(Interventional radiology: IVR)法の開発、④陽子線治療を含む放射線治療の最適化と治療成績向上、⑤放射線生物学に基づく放射線生物学の探求
		橋渡 昭雄 教授	
		総合診療医学・総合内科学	
		宮崎 景 教授	下記のトピックに関する量的および質的研究①総合診療医/総合内科医の養成(カリキュラム開発、ビデオレビュー、多職種連携等)、②ACIP(人生会議)の推進、③医療面接の有用性(SP養成等)、④SDH(健康の社会的決定要因)(COVID-19、在日外国人の医療アクセス等)、⑤健康の新しい概念(positive health)の構築、⑥希少疾患(SCLS)に関する全国調査、診断、治療法の開発⑦コミュニティヘルスケアセンターを活用した地域参加型研究(フレイル予防等)
		臨床薬剤学	
		日比 陽子 教授	
		先進急性期医療学	(笹野寛教授)呼吸・循環連携(心拍・血流変動解析・呼吸性動性不整脈の生理)、臨床デバイスの開発(超音波ガイド下穿刺法、酸素投与方法)、末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル、医学シミュレーション教育(服部友紀教授)静脈血ガスと乳酸値の研究、敗血症病態と血管内皮由来過分因子(EDHF)の研究、フレイルと救急医療についての研究、COVID-19による肺障害の研究、COVID-19の後遺症の研究
		救命救急医療学	
		松嶋 麻子 教授	
		感染症学	高齡化社会における敗血症に関する臨床研究、院内感染予防と対策に関する臨床研究 重症外傷および救急搬送に関する臨床研究 減災・医療に関する研究 救急医療とヘルスケアアートに関する研究
		伊東 直哉 教授	
		環境労働衛生学	
		上島 通浩 教授	①環境化学物質のリスク評価(健康影響・作用機序・曝露量の解明)に関する研究 ②小児環境保健疫学研究
		公衆衛生学	
		鈴木 貞夫 教授	
		法医学	がんやメタボリックシンドロームなどの生活習慣病・健康・QOL・総死亡率などに関連する要因(生活習慣、生育歴、心理社会的要因、遺伝子多型など、要因間の交互作用も含む)の種々の疫学研究による探索と評価、診断・検査法の評価と比較、臨床疫学、難病の記述疫学
		大島 徹 教授	
		医学・医療教育学	
		高桑 修 教授	被虐待児の眼所見に関する研究、死後生化学検査を用いた法病理学的研究、体内の細胞外小胞解析による死因究明、ヒト細胞を用いた薬毒物の毒性発現機序の解明、ミトコンドリア遺伝子を用いた人類遺伝学的検討、ヒト感染ウイルスを用いた分子進化的検討とその法医学的应用、法医真菌学、法医画像診断
		次世代医療開発学	
		（未定）	
		医療統計学・データサイエンス	多施設参加型教育システムの開発、効果的なFaculty developmentの開発、新しい多職種連携教育の開発と有効性の評価
		吉村 健一 教授	
		医療統計学・データサイエンス	医療分野における統計手法の新規開発、生物統計学的方法論の研究、統計学の広く応用分野としてのデータサイエンス研究(データ管理方法論からデータ収集計画および統計解析・解釈までの範囲の研究等)、及びその応用分野としての臨床研究/臨床試験の計画・実施に関連した種々の方法論に関する研究

CLUB & CIRCLE

クラブ・サークル



名古屋市立大学には、文化系から運動系まで様々な活動を行っているクラブ・サークルがあります。その中には、様々な学部が所属する全学のクラブ・サークルだけでなく、医学部独自のものもあります。仲間とともに目標に向かって努力した時間は生涯にわたる貴重な財産となるはずです。



文化系 CLUTURE CLUB

クラブ ●20団体

- オーケストラ部
- ギター・マンドリンクラブ
- 軽音楽部
- 邦楽部
- アイセック名古屋市立大学委員会
- ダンス部カリクレイン
- 写真部
- 救急救命サークルMeLSC
(名市大ライフサポートクラブ)
- 大衆文化研究会
- 演劇部
- 茶華道部
- 障害者問題研究会
- 文藝部
- 東洋医学研究会
- 蝶ヶ岳ボランティア診療班
- ストリートダンス部 HipHopCafe
- 生協学生委員会
- アカペラサークルAndante
- NCU FM!
- MoL

同好会 ●26団体

運動系 ATHLETIC CLUB

クラブ ●29団体

- 硬式野球部
- 準硬式野球部
- 硬式テニス部
- ソフトテニス部
- バレーボール部
- バドミントン部
- バスケットボール部
- ラグビー部
- 卓球部
- 柔道部
- 水泳部
- スキー部
- サイクリング部
- 医学部ハンドボール部
- ゴルフ部
- 医療系バレーボール部
- 剣道部
- 馬術部
- 弓道部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- サッカー部
- ハンドボール部
- 医薬看卓球部
- 日本拳法部
- 医学部サッカー部
- 医療系スノーボード部
- 医学部バドミントン部
- 全学競技スノーボード部

同好会 ●14団体

蝶ヶ岳ボランティア診療班



蝶ヶ岳ボランティア診療班は、毎年夏に、長野県の蝶ヶ岳山頂にある診療所で診療活動を行っています。学生は医療スタッフのサポートの下、医療面接やバイタルサイン測定、登山者に対する高山病の予防的介入などの啓発活動を行っています。また、毎週月曜日に診療活動に向けた勉強会を行っています。

MESSAGES

蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生代表を務めています医学部3年の湊谷春輝です。診療班の部員は7月中旬から約5週間、各班交代で北アルプスの蝶ヶ岳(2,677m)に登り、山頂にある蝶ヶ岳ヒュッテの診療所で医師の診療活動をサポートをします。蝶ヶ岳山頂から見渡す絶景は多くの登山者を魅了しており、一度登ると、その感動は一生の思い出になること間違いなしです。

普段の活動は、毎週月曜日に勉強会を開いたり、練習山行を行っています。勉強会では、医療面接やバイタル測定、薬剤などの専門技術や、山岳知識の習得に取り組んでいます。

部員は医学・看護学合わせて100人を超え、学年関係なくとても仲が良いのが特徴です。また、部員のほとんどが大学入学時に登山未経験で、文化部出身の人も多いため、体力に自信がなくても全く問題ないです！休日には仲間と旅行や外食、冬にはスキーに出かけたりして、充実した日々を過ごしています。ぜひ私たちといっしょに活動してみませんか。

救急救命サークルMeLSC



MeLSC(Meishidai Life Support Club)は『救急』をテーマに勉強会を開催しており、医学部医学科が約100人、保健医療学科看護学専攻が約40人所属する非常に大きな部活です。勉強会は月2回の頻度で、BLS(一次救命処置)やFirst-Aid(応急処置)など一般市民でも行えるものを扱い、学生が講義・指導する形で多くの先輩方や同期、後輩達と交流しつつ楽しく学べます。

MESSAGES

救急救命サークルMeLSCの代表を務めている医学部医学科3年の田中拓海です。

MeLSCでは月2回ほど勉強会を開催し、部員全体でBLS(一次救命処置)やFA(応急処置)などを主体的に学んでいます。救急に関する知識はもちろん、AEDや人形、包帯などを用いて実践的なスキルアップにも務めています。意欲のある学生が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく学んでいます。

医療系学部が中心ですが、人文社会学部や経済学部の学生も所属しています。さらに、普段の勉強会では5~6人ずつのグループに分けて手技練習をしているので、近ごろ医療現場で重要とされている他職種連携やチーム医療についても、学生のうちから実践することができます。

MeLSCの活動の一環として、昨夏には名古屋市大の学生・職員に向けて、3月には市民に向けてBLS講習会を開催しました。部員以外へBLSを普及させることも、MeLSCの使命のひとつだと考えています。

大学祭

本学では4キャンパスで大学祭を開催しています。学生主導で企画・運営し、在学生に限らず、地域住民の方々にもご参加いただいています。

※最新の開催状況はHPをご確認ください。



川澄祭



芸工祭



薬学祭



市大祭

CAMPUS CALENDER キャンパスカレンダー



入学式



解剖感謝式



SPRING



SUMMER



AUTUMN



オープンキャンパス



川澄祭

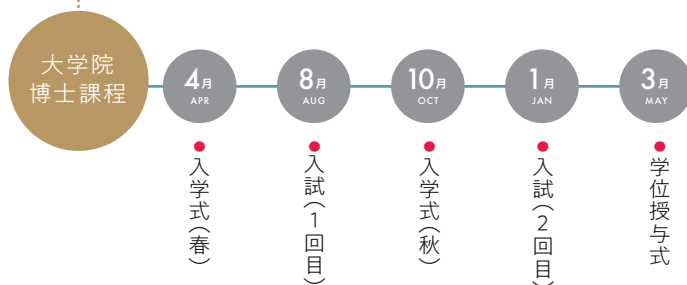
内容盛りだくさん！ 医学部医学科の一年間。



OSCE



WINTER



卒業式



STUDY ABROAD

留学案内

		プログラム名	国名	派遣期間	派遣人数	応募要件等	備考	奨学金対象
全学募集プログラム	短期研修・実習	ルートヴィクスハーフェン 経済大学サマースクール研修	ドイツ	3週間(8月)	10名程度	学部生に限る ある程度の英語能力を有する学生	※	○
		中国短期語学研修	台湾	2週間(9月)	5-10名程度	原則として、中国語を履修していること、 または履修した経験があること	※	×
		台北護理健康大学 サマープログラム	台湾	2週間(8月)	6名	ある程度の英語能力を有する 医学部・薬学部の学生	※	○
		韓国語短期研修	韓国	2週間(8月/2月)	10名程度	原則として、 韓国語を履修していること	※	×
		カルガリー大学付属 語学学校短期研修	カナダ	4週間(8月)	最大15名	ある程度の英語能力を有する 学生	※	○
		ミシガン州立大学 短期研修	アメリカ	4週間(2月)	最大15名	ある程度の英語能力を有する 学生	※	○
		ジャウメI世大学 短期研修	スペイン	3週間(9月)	10名程度	ある程度の英語能力を有する 学生	※	○
	インターンシップ	国連食糧農業機関 (FAO)インターンシップ	全世界の FAOオフィス	3ヶ月～	若干名	国際機関での業務遂行に十分な 英語コミュニケーション・調整能力を 有する者 TOEIC850点以上相当を有する者	学部4年生 以上が望ましい 単位認定なし	○
医学部医学科プログラム	3年生	海外協定校での リサーチクラークシップ	海外協定校	約3か月	若干名	書類審査、面接にて選考	医学部医学科 3年生の基礎自主 研修と同等のもの と認める	○
	6年生	海外協定校での 選択制臨床実習	海外協定校	約4週間	若干名	書類審査、面接にて選考	医学部医学科 6年生の選択制 臨床実習と同等の ものと認める	○

※単位認定は医学科の定める手続きに従う

名古屋市立大学 国際交流センター

国際交流情報の発信・ 国際交流イベントの開催

留学・奨学金情報や国際交流イベントの情報を内外の掲示板及び大学ウェブサイト(トップ>国際交流・留学)に掲出しています。また、留学生と日本人学生が交流する機会として、留学生交流会などのイベントを行っています。



留学相談

スタッフが協定校留学をはじめとする学生の海外留学の相談に応じています。国際交流センター主催で、毎年2回、留学フェアを開催しています。また、短期語学研修説明会も適宜開催しています。



語学教材貸出・ 資料閲覧

英語教材のほか、中国語・フランス語・ドイツ語など第二外国語の教材も幅広く揃えており、貸し出しをしています。その他、週1回発行の英字新聞The Japan Times Alphaも閲覧できます。



外国語 Talk Time

昼休みに交換留学生による「Talk Time」を実施しています。センターでは中国語、ドイツ語、韓国語トークタイムを実施しています。



問い合わせ先:国際交流センター TEL:052-872-6315 MAIL:ryugaku@sec.nagoya-cu.ac.jp

留学体験談はこちら



HISTORY

- 
- 1943年 4月 名古屋市立女子高等医学専門学校開校
- 1948年 4月 名古屋女子医科大学開学
- 1949年10月 名古屋市議会において名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、名古屋市立大学とする決議案
- 1950年 4月 名古屋市立大学設置(旧制医学部入学定員40名)
- 1951年 3月 名古屋市立女子高等医学専門学校閉校
- 1952年 4月 新制医学部医学科設置(入学定員40名)
- 1955年 4月 医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 1958年 9月 医学部を田辺通キャンパスから川澄キャンパスに移転
- 1959年 5月 旧制医学研究科に学位論文審査権附与
- 1960年11月 医学部図書館を附属病院内から川澄キャンパスへ移転
- 1961年 3月 旧制医学部および同研究科廃止
- 1961年 4月 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 1963年 4月 医学部医学科入学定員を60名に増員
- 1966年11月 附属病院を改築、新病院(川澄キャンパス)にて診療開始
- 1975年 4月 医学部医学科入学定員を80名に増員
- 1975年 9月 医学部図書館・講堂完成
- 1977年 6月 基礎教育棟完成
- 1981年 5月 附属病院増築工事完成
- 1987年 4月 医学部分子医学研究所発足
- 1992年12月 医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 1996年 3月 医学研究科・医学部研究棟完成
- 2000年 4月 医学研究科の専攻を再編し、入学定員を27名から52名に増員
- 2002年 4月 大学院部局化
- 2004年 1月 附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 2006年 4月 名古屋市立大学の独立行政法人化
- 2007年 5月 附属病院の外来診療棟が稼働開始
- 2008年 4月 医学研究科修士課程(入学定員10名)を設置
- 2009年 4月 医学部の入学定員を92名に増員
- 2010年 4月 医学部の入学定員を95名に増員
- 2012年 5月 附属病院の東棟(喜谷記念がん治療センター)稼働開始
- 2014年 8月 医療デザイン研究センターを設置
- 2014年11月 不育症研究センターを設置
- 2015年 4月 医学部の入学定員を97名に増員
- 2015年10月 医学研究科・医学部未来プランを策定
- 2017年 1月 先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 2017年 4月 修士課程に臨床医療デザイン学分野を設置
- 2019年10月 脳神経科学研究所を開設
- 2021年 4月 名古屋市立東部・西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化
- 2023年 4月 名古屋市立緑市民病院、名古屋市厚生院附属病院を名古屋市立大学医学部附属病院化
- 2025年 4月 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院を名古屋市立大学医学部附属病院化



2025年は、名古屋市立大学開学75周年

名古屋市立大学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp>

キャンパスMAP

